

平成30年度再評価対象事業  
(対象：平成25年度再評価実施事業)

(再評価実施後、一定期間(5年)が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	コスト縮減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業化案)																																			
	再評価時点 H25	玉島川(横田川)河川整備交付金事業(広域河川改修事業)	流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る。 ・計画流量：100m <sup>3</sup> /s ・計画治水安全度：1/30	全体事業費：C=46億円 工期：H5～H32 改修延長：L=2,360m 事業内容： 堀削・築堤・護岸、橋梁6基、JR橋梁1基、サイフォン1基	玉島川合流点からJR橋下流までの約650mについて概成し、JR橋分水路工に着手している。 用地は国道橋まで完了している。 橋梁2基が完成 (H24末進捗率64%) (年平均進捗率 3.0%)	(過去の災害実績) 平成3年9月洪水 浸水家屋：11戸 (地域の状況) 西九州自動車道の整備が完了した事で、今後ますます都市化が進展するものと思われる。	最新のマニュアルに基づき、費用対効果(B/C)を算出した。 ・(B/C)=3.2	・再生材の積極的利用 ・建設副産物の有効利用 ・JR橋改築については、大規模な工事で費用もかかるため、分水路方式によりコスト縮減を図る。	再評価実施後5年が経過	継続																																			
	現時点 H30	玉島川(横田川)河川整備交付金事業(広域河川改修事業)	流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る。 ・計画流量：100m <sup>3</sup> /s ・計画治水安全度：1/30	全体事業費：C=52億円 工期：H5～H35 改修延長：L=2,360m 事業内容： 堀削・築堤・護岸、橋梁6基、JR橋梁1基、サイフォン1基	玉島川合流点からJR橋下流までの約650mについて完了している。 現在、JR橋梁上流から常松橋下流の約700mの築堤工事及びJR橋梁、常松橋改築工事を進めている。 橋梁4基が完成 (H29末進捗率82%) (年平均進捗率 3.3%)	(過去の災害実績) 同上 (地域の状況) 西九州自動車道の整備が完了した事で、今後ますます都市化が進展しており、特に国道202号より上流は、新興住宅地の開発が著しく見受けられる。	最新のマニュアルに基づき、費用対効果(B/C)を算出した。 ・(B/C)=2.9	同上	再評価実施後5年が経過	平成3年洪水被害を軽減するため、流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、地域住民の安心・安全を確保するためには、当事業の継続が必要である。																																			
	理由等			掘削土の改良処理及び埋設物(サイフォン、水道管)の移転による事業費の増 JRとの協議に期間を要したことによる工期の延長	<p>進捗率</p> <table border="1"> <caption>進捗率推移表</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>平成25年度再評価時 (%)</th> <th>平成30年度再評価時 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H25年</td><td>65%</td><td>-</td></tr> <tr><td>H26年</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>H27年</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>H28年</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>H29年</td><td>-</td><td>82%</td></tr> <tr><td>H30年</td><td>88%</td><td>100%</td></tr> <tr><td>H31年</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>H32年</td><td>100%</td><td>-</td></tr> <tr><td>H33年</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>H34年</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>H35年</td><td>100%</td><td>100%</td></tr> </tbody> </table>	年度	平成25年度再評価時 (%)	平成30年度再評価時 (%)	H25年	65%	-	H26年	-	-	H27年	-	-	H28年	-	-	H29年	-	82%	H30年	88%	100%	H31年	-	-	H32年	100%	-	H33年	-	-	H34年	-	-	H35年	100%	100%	前回再評価時と比較し、工期延長及び全体事業費の増によりCが増大し、費用対効果(B/C)の減となった。			
年度	平成25年度再評価時 (%)	平成30年度再評価時 (%)																																											
H25年	65%	-																																											
H26年	-	-																																											
H27年	-	-																																											
H28年	-	-																																											
H29年	-	82%																																											
H30年	88%	100%																																											
H31年	-	-																																											
H32年	100%	-																																											
H33年	-	-																																											
H34年	-	-																																											
H35年	100%	100%																																											